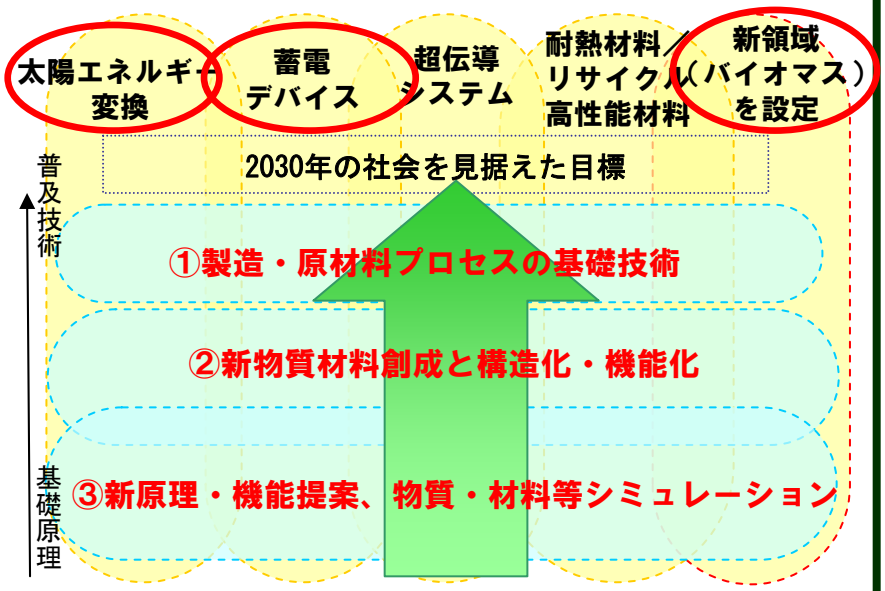
文部科学省

科学技術振興機構（ＪＳＴ）「先端的低炭素化技術開発」

【背景】
従来技術の延長線上の技術を開発するだけでは、将来の温室効果ガスの大幅な削減や我が国技術の国際競争力の維持・強化、我が国技術の国際展開による成長を実現することは不可能！

従来技術の延長線上にない新たな科学的・技術的知見に基づいた革新的技術の研究開発が不可欠

【目的】
○将来の温室効果ガスの大幅な削減
○我が国技術の国際競争力の維持・強化
○我が国技術の国際展開による成長



【事業概要】
現時点では未知の新たな科学的・技術的概念を引き出し、発展させ、ブレークスルーを実現するための研究開発を実施。

●総合科学技術会議「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」（平成22年7月）の施策パッケージとして位置づけ。

●温室効果ガス削減に大きな可能性を有し、かつ、従来技術の延長線上にない新たな科学的・技術的知見に基づく革新的技術の研究開発を競争的環境下で実施し、実用化を視野に入れた革新的な研究成果を創出し、企業等への移転を図る。

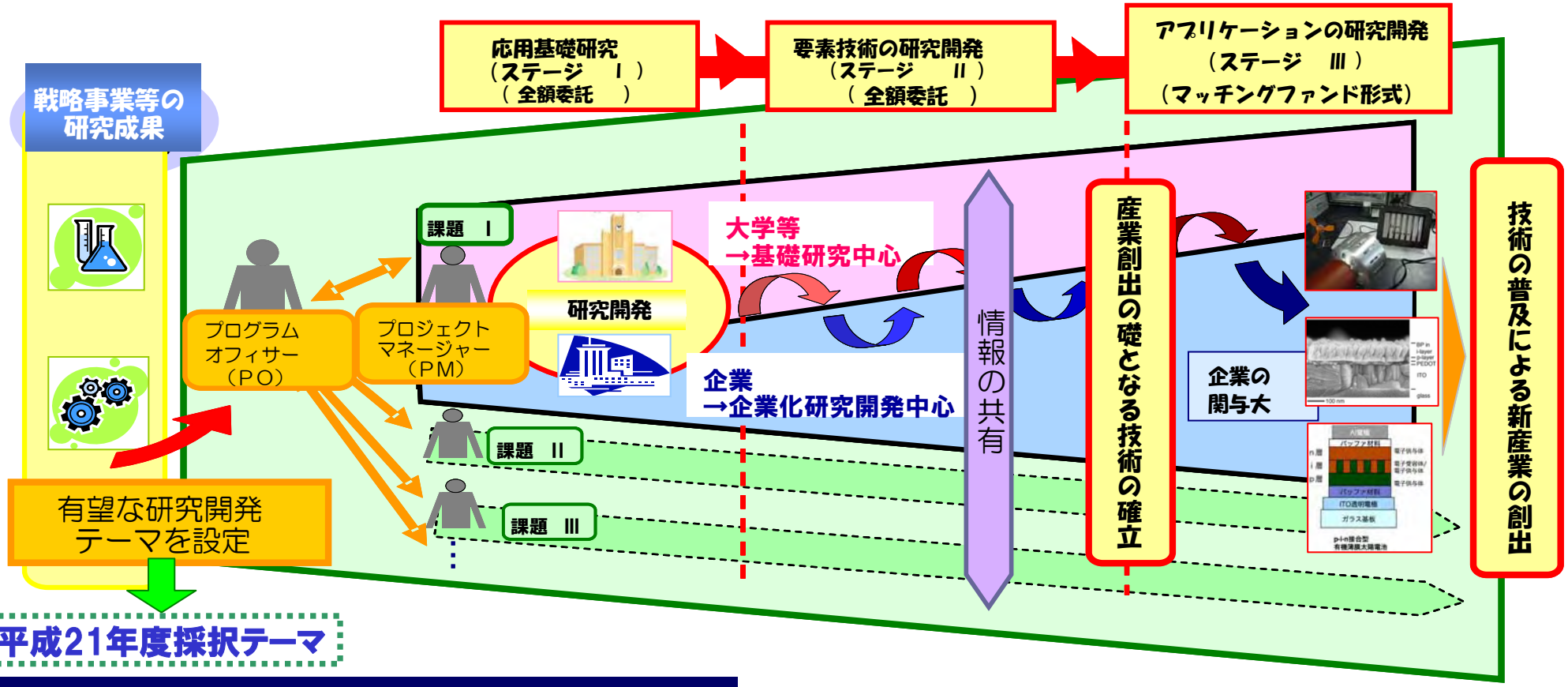
＜支援期間＞
３～４年間毎のステージゲート方式による厳しい評価を行いながら、優れた研究開発は　最大１０年間の支援を実施

＜対象機関＞
大学、公的研究機関、及び民間企業

（特徴）
○JST低炭素社会戦略センター（LCS）との連携
LCSが提示する技術領域や科学的・技術的要素を参考にすることで、各課題の位置づけの明確化や研究開発目標を見据えた取組みが可能に。（成果はLCSへ還元）
○技術シーズの創出のみならず、技術の実現に向けた取組を実施。産業界、行政や市民との間で知識・情報の相互流通促進。共同研究開発への展開。

科学技術振興機構〔JST〕 産学イノベーション加速事業【戦略的イノベーション創出推進】

JSTの戦略的創造研究推進事業等の成果から産業創出の礎となる研究開発テーマを設定し、公募選定された産学連携による複数研究開発チームの下で長期一貫（最大10年間）した研究開発を進めます。



平成21年度採択テーマ

（1）iPSを核とする細胞を用いた医療産業の構築

（2）有機材料を基礎とした新規エレクトロニクス技術の開発

（3）フォトニクスポリマーによる先進情報通信技術の開発

（4）超伝導システムによる先進エネルギー・エレクトロニクス産業の創出

課題Ⅰ 新しい高性能ポリマー半導体材料と印刷プロセスによるAM-TFTを基盤とするフレキシブルディスプレイの開発

課題Ⅱ フレキシブル浮遊電極をコア技術とする新太陽電池分野の創成

課題Ⅲ 印刷で製造するフレキシブル有機EL照明の開発

課題Ⅳ 塗布型長寿命有機太陽電池の創出と実用化に向けた基盤技術開発